

ARで埋設物破損事故防ぐ

電線地中化現場 道路建設が導入

苫小牧市栄町で

【苫小牧】道路建設（本店・

苫小牧）は、苫小牧市中心部で進めている電線地中化の施工現場に、地下埋設物の安全対策としてAR技術を導入している。地下埋設物の配置・構造を可視化することで埋設物の破損事故を防ぐ取り組み。同社では初の導入となる。

今回、AR技術を取り入れたのは36号苫小牧市栄町電線共同溝設置。2021年2月26日の完成を目標に夜間施工で進めており、1月末まで工事が続く予定だ。

安全対策には、ネクステラス

（本社・札幌）が開発したアプリ「Terrace AR」を活用。

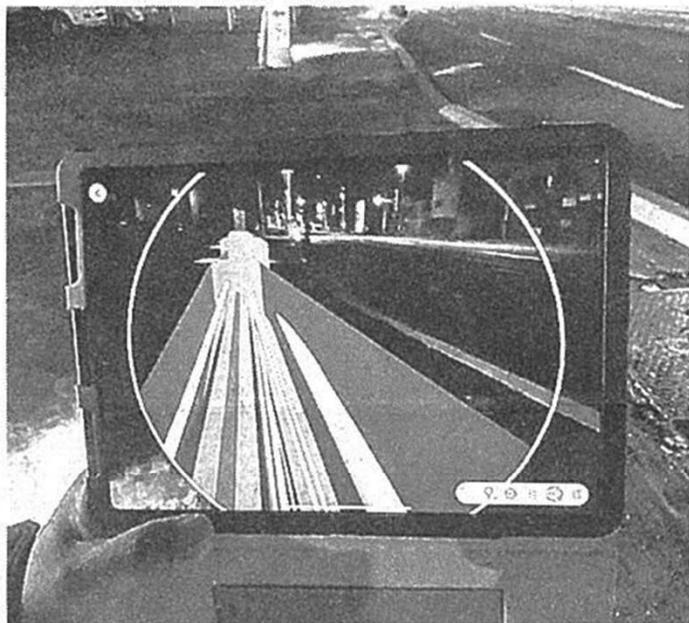
iPadのカメラを通し、地中に埋まっているライファイの管を3Dモデルで映し出し

て可視化する。日々の施工前会議などで、3Dモデルを見ながら作業員と情報を共有している。具体的には、ガス管を黄色、水道管を青と水色、NTTの電話線を茶色に色分けし「見える化」を実現。これにより埋設物

施工前に作業員と情報共有

近くを掘る際に、既存のライファイン管に損傷を与えないよう配慮することが可能となる。

現場代理人を務める井上高弘工事長は「管が見える化することで、作業員も気を付けようという気持ちが生まれる。安全施工に努め、無事故で工事を終了させたい」と話している。



管ごとに色分けすることで見える化し未然に事故を防いでいる